

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると(1号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成29年11月4日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成29年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最後は自分が住み慣れた場所で。そして最後まで自分の好きな事をしたい」この想いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。
 ・したいことはその日のうちに・実行できる様に、スタッフ間で協力をしながらケアをおこない、最後を迎える時は「ここ(ると)でよかった」と感じてくださる様に心のこもったケアを行っていきたくと考えています。
 「ゆったり・楽しく・仲良く」の理念の基、入居者の方とスタッフが同じ時間を支えあいながら穏やか過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの身体状況や思いに沿って、それぞれのペースでの生活が守られている。地域の家庭料理が提供され、明るく優しいスタッフが入居者の瞬時を大切に支援するホームとなっている。
 日々の健康管理・状態急変時の医療的対応・終末期の看取りケアまで、隣接する母体医療機関の支えがあり、入居者・家族・スタッフの安心に繋がっている。
 家族会を開催し、利用者・家族・職員が夕食を一緒にとりながら会話を楽しむ機会を作り、家族の要望や意見を聞いたり、ホームの雰囲気を知ってもらいながら信頼関係を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者家族からの要望を受け「ゆったり、楽しく、仲良く」との分かり易い言葉で作った理念を掲げ、スタッフ全員が共有し実践できる様に努力しています。	一人ひとりの思いやペースを大切に、眠い時は眠り、気分転換が必要なときは散歩に出かけるなど、理念「ゆったり、楽しく、仲良く」の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流の場は見つけれない。地元地区の祭りにはスタッフが準備という形で参加している。地域への奉仕作業を最近始めている。	ホームは、民家から離れた高台の一画に位置しており、地域との交流は、活発には行っていない。現管理者は、地域との交流に意欲を示し、管理者自らグランドゴルフ大会に参加したり、計画作成担当者が町の活性化を行なうリーダー的人々との交流を始めており、今後、交流が盛んになることが大いに期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の有り方を検討する必要があるがなかなかできていない。運営推進会議では会話の中では話題に上がるときがあるので今後検討必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度(偶数月の第3木曜日)に開催している。会議中は会話の時間を多くもうけ、雑談も行いながら話しやすい環境を作っている。また委員からの意見は全職員で共有しサービスに反映できる様にしている。	運営推進会議は、利用者・利用者家族・老人会会長・消防団長・地区社協会長等の参加で開催され、主に施設側から行事・事故報告等の情報提供が行なわれている。現管理者・計画作成担当者は共に地域との交流に積極的な姿勢を示しており、運営推進会議の支援によって、今後、更に地域との交流が盛んになることが期待される。	運営推進会議に、地域交流を進めるうえで協力的な人材を招待し、話し合うことも良いかと思われる。管理者の交替等に関し、会議で報告された内容は、議事録に記載されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換など、連携作りに努めている。又市事象のあんしん相談員も受け入れ協力体制をとっている。	天草市が派遣する「安心介護相談員」を受入れ、入居者が思いや意見を訴える機会を大切にしている。行政から改善点等の情報が得られれば出来る限り対応し、開放的で透明性のあるホームにしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自のマニュアルを作成し活用している。又、身体拘束に関する外部研修に参加してもらい、施設内でも伝達研修をおこなっている。	新入職員には虐待・拘束防止について、「入居者に見られる虐待サイン・スタッフの態度に見られる虐待サイン」等、具体的に書かれた資料を提供してOJTで指導し、拘束をしないケアに取り組んでいる。また、天草市主催の研修会等に職員を参加させて、「笑顔になる声かけ」を全職員で目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの方法が虐待にあたらないか、又誤解されるようなケアではなかったか、職員同士で声を掛け合い、話し合っているようにしています。又、ニュースになった事例などは全職員に共有できるように、その都度掲示しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。現在は対象者はいないが、適切な対応が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に御家族に説明を行い、同意をもらっている。その際に、御家族からの質問にも分かりやすく回答し、理解してもらい、不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時に、スタッフと御家族の会話も多く持ち、意見など言いやすい環境作りに努めている。要望があった場合は全てのスタッフへ周知し話し合いの場を設けている。	入居者・家族・職員と一緒に夕食を取りながら会話を楽しむ家族会を行っている。次回は忘年会を兼ねての家族会を検討している。利用者への面会時や家族会の際には、家族の思いや意見が言いやすい和やかな雰囲気づくりに配慮している。また、毎月、写真や行事予定表を家族に送り、近況報告も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催しており、その時自由な意見が出せるような雰囲気作りを行っている。参加できないスタッフからの意見も預かるようにしている。	これまで昼間に実施していた毎月のミーティングは、職員の提案で夕方18時から実施されるようになった。この変更により職員の参加率も高まり良い結果が得られている。訪問調査日の職員面接でも提案や意見が言いやすい環境であることが確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や、目標管理シート、職業性ストレス簡易調査表を活用し、勤務状況の把握と職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に参加し、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談が可能な場合は面談し、できるだけ顔見知りの関係になれるようにしている。また、話をよく聞きその方の思いを把握するところからケアの実践にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、その時々々に御家族に思いを聞き、ケアの中に取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いやニーズをふまえ、他サービス利用も含め適切なサービスが提供できる様に、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、職員が分からないことなどを尋ねたり、教えてもらうような場面を作ったりと心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には現在の状態を詳しく説明している。面会が少ない御家族には電話での状態説明を行い、面会の声かけもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前までの人生史を本人、又は御家族からお聞きし把握しその情報をケアに活用するようにしている。これまでの関係や馴染みの関係なども継続できる様に努めている。	高台の広大な敷地内に同法人に所属する医院・ケアハウス・デイサービスセンター・老健・有料老人ホーム・特養等があり、入居者の知人や、顔馴染みの他施設職員等と顔を合わせる機会もある。管理者は今後、ホームをより開放的にして馴染みの関係継続に更なる支援をしたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考えての席のセッティングなど行い、必要時その都度変更できる様にしている。職員が間に入り会話などで盛り上げられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の方から相談があった場合にはその都度対応している。施設で看取りを行った方など、初盆参りなども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話から、本人の意向や意思の把握をおこない実現できるように工夫している。パーソンセンタードケアの実践に努めている。	思いや意向の表出が困難な利用者でも、入所時に本人や家族から得られた入居者のこれまでの経歴・家族構成・エピソード等の情報を記録した「人生史」や、入所前に利用していた他施設の情報等を参考に、その人の思いを検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に人生史を御家族様に書いてもらっている。また今まで利用してこられたサービス歴も確認し、可能な限り連携をとるようにしている。友人や知人の面会の際には会話などから情報を得たり尋ねたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人のペースで過ごしてもらえるように、状態観察をおこない自由にもらっている。行動や表情などの変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれのプランの期間にあわせてのカンファレンスを行っている。状態の変化が見られた時はその都度行い、意見を出し合いプランに反映できる様にしている。	入所時にアセスメントを実施し、暫定的なケアプランを作成し、1ヵ月後、3か月、6ヵ月後の見直しを行っている。日々の経過記録は24時間細かく記録し、状態変更の際は適宜に見直しを行っている。プラン作成に当たっては、本人・家族の意向を大切にしている。	現在使用されているモニタリングの様式は、情報が読み取りにくいと思われる。様式の見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録には、会話内容など詳しく記入するようにしている。行動内容も具体的に記入し、その内容を考察しプランに反映できる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報やサービスを利用できる様に、視野を広げる努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在傾聴ボランティアの方が来てくださっている。美容室のカットボランティアの受け入れも行っており、美容室へ行ったりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族の希望を尊重し、かかりつけ医の決定をおこなっている。たま適切な医療が受けられるように受診の援助を行っている。	現在の入居者は、母体法人が運営する医院をかかりつけ医としている。歯科・外科・精神科等への受診は、職員が同行したり、職員と家族が動向するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃からと看護師と医院の看護師が連絡を取り合い情報共有を行っている。緊急時の対応も24時間体制で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、入院先の医師・看護師に情報提供を行い、情報交換を密に行っている。面会も頻会にいくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを実施していること御家族に説明し、同意をもらっている。また、本人と御家族の意向を確認し、本人の望む最後が迎えられるようにスタッフ全員でとりにくんでいる。	入所契約の際、「看取りに関する指針」により終末期にホームが提供する介護について説明し、同意を得ている。看取り介護は、ホームが提供するケアの一部として自然な対応となっており、職員の意識にも浸透している。母体の医療機関が隣接していることが、看取り介護を行う上での支えともなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人スタッフには施設内の研修に参加してもらっているが、その後の研修は行えていない。実践で経験者についてもらい指導をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の消防訓練を地域の消防団と合同で年2回行っている。	11月初めに同敷地内にある系列の他事業所と合同で消防署・地域消防団の協力を得て夜間想定火災訓練を実施している。冬期は、エアコンに加え灯油ストーブも使用されていることから、利用者の見守りや火元管理に関する職員の意識を強化することも大切と思われる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた声かけや対応を行っています。方言を使い声かけを多くおこなうので、尊厳が損なわれないように日頃から方言の使い方、声のかけかたなどを職員間で確認をするようにしている。	その人の「人生史」や、入居前に利用していた施設からの情報等を参考に、入居者の自尊心や誇りに配慮した支援の提供に努めている。また、排泄支援の言葉かけ、入浴介助等の際にもプライバシーの確保に配慮した支援を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でのことは入居者自身に尋ね、決定していただくように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や日課などの参加は入居者の方の意思を尊重し無理強いしないようにしている。業務優先にならないように日頃から配慮し、それぞれのペースで生活が送れるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を決めてもらったり、化粧品など使い慣れたものを用意するようにしている。声かけも工夫し身だしなみに興味を持ってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、季節感や見た目など楽しめるように工夫している。又玉ねぎの皮むきや、できる下処理などお手伝いを依頼し一緒にやっている。	其々のユニットの職員が自由に献立を考え、食材を選んで調理された地域の家庭料理が提供されている。食材は野菜を豊富に取り入れ、手作りのおやつも多く出されている。時にはインスタントラーメンを取り入れたり、誕生日は外食を楽しむ等、気分を変えて美味しく食べる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックし少ない方には、食べやすいものやお好きなものを別メニューで対応している。必要時には栄養補助食品も活用している。提供時間も特にこだわらず、望む時間に提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と臥床時に口腔ケアを行っている。本人の状態にあわせて、声かけ、セッティング、介助などを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握。誘導時間や使用パットのサイズなど検討している。本人様の訴えサインなども見逃さないようにトイレでの排泄を心がけています。	日々の睡眠・水分摂取量・排泄の状況を24時間記録し、体調管理を行い、一人ひとりに一番あったと思われる快適な排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より旬の野菜を食材にした献立作りを心がけており、食事や水分補給などで工夫している。必要であれば薬などの量を調整し、快適な排便ができる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の実施のほかに、本人が希望があったときなども対応している。夜間帯での入浴実施はできていない。菖蒲湯やゆず湯、などの季節のものも取り入れている。	入浴は1週間に3回以上を基本とし、希望があればいつでも入浴支援ができるように協力体制を作っている。入浴は、入りたい気持ちを大切に、気分がのらない時は無理をせず、マンツウマンの対応でゆっくりとした入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者の好きなように過ごしてもらい、夜間も眠たくなるまでお好きなように過ごしてもらっています。夜間不眠傾向にあられる方は日中の活動を検討し、夜間眠りやすい環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬剤内容をファイルし把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそい、急な希望でも対応できる様になっている。御家族への協力依頼もおこなっている。	両ユニット共、要介護度の平均レベルが3以上であり日常的な外出は容易ではないが、トイレが整備された使いやすい公園を選んでピクニックに出かけている。遠出はしなくても、広い敷地内にある桜の木を見ながらおやつを食べたり、海を眺めたり、寒い季節は戸外で焼き芋を楽しむなど、気分転換の支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者それぞれの管理能力に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状や、暑中見舞いなどを手書きで書けるように支援し、家族や遠方におられるお友達などに出している。電話も希望があれば行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、温かい光や快適な風などを取り込めるようにしている。又季節の花などを飾り季節感を感じれるようにしている。施設内の雑音常に配慮している。	共有の玄関を中心に同じ作りの二つのユニットが対象に設計されており、行事の際は、移動式の壁で仕切られた二つのリビングを一つの大広間として使うことができる。日中は殆どの入居者がリビングで過ごし、職員の動きを感じながら、思い思いに安心してゆっくり過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置し、ゆっくりゆったり過ごせるようにしている。人間関係にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使っていた馴染みの家具や品物の持込をお願いしている。仏様の持ち込みもあり、本人にとって居心地のよいお部屋作り心がけている。又状態に合わせた家具の配置替えなどもその都度行っている。	使い慣れた整理タンス・テレビ・机・敷物やマリア様の像など、これまでの生活の継続を大切にした部屋づくりが感じられる。家具の持ち込みが少ない部屋は、職員手作りの楽しい壁飾りが飾られており、利用者への温かい思いが見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の状態にあわせた対応を行っている。職員間でもはなしあい、変化などの情報共有を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると(2号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成29年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最後は自分が住み慣れた場所で。そして最後まで自分の好きな事をしたい」この想いから私たちのグループホームはターミナルケアまでを取り組んでいます。
 ・したいことはその日のうちに・実行できる様に、スタッフ間で協力をしながらケアをおこない、最後を迎える時は「ここ(ると)でよかった」と感じてくださる様に心のこもったケアを行っていきたく考えています。
 「ゆったり・楽しく・仲良く」の理念の基、入居者の方とスタッフが同じ時間を支えあいながら穏やか過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり、楽しく、仲良く」との分かり易い言葉で作った理念を掲げ、スタッフ全員が共有し実践できる様に努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流の場は見つけれない。地元地区の祭りにはスタッフが準備という形で参加している。地域への奉仕作業を最近始めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の有り方を検討する必要があるがなかなかできていない。運営推進会議では会話の中では話題に上がるときがあるので今後検討必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度(偶数月の第3木曜日)に開催している。会議中は会話の時間を多くもうけ、雑談も行いながら会話しやすい環境を作っている。また委員からの意見は全職員で共有しサービスに反映できる様にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換など、連携作りに努めている。又市事象のあんしん相談員も受け入れ協力体制をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自のマニュアルを作成し活用している。又、身体拘束に関する外部研修に参加してもらい、施設内でも伝達研修をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの方法が虐待にあたらないか、又誤解されるようなケアではなかったか、職員同士で声を掛け合い、話し合っ考えるようにしています。又、ニュースになった事例などは全職員に共有できる様に、その都度掲示しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。現在は対象者はいないが、適切な対応が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に御家族に説明を行い、同意をもらっている。その際に、御家族からの質問にも分かりやすく回答し、理解してもらい、不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時に、スタッフと御家族の会話も多く持ち、意見など言いやすい環境作りに努めている。要望があった場合は全てのスタッフへ周知し話し合いの場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催しており、その時自由な意見が出せるような雰囲気作りを行っている。参加できないスタッフからの意見も預かるようにしている。日頃からスタッフ同士の会話を多く行い、意見を言いやすい環境作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や、目標管理シート、職業性ストレス簡易調査表を活用し、勤務状況の把握と職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に参加し、意見交換を行っている。それぞれのスタッフの交友関係も活用し他事業所との情報交換もまめにおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談が可能な場合は面談し、できるだけ顔見知りの関係になれるようにしている。また、話をよく聞きその方の思いを把握するところからケアの実践にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、その時々々に御家族に思いを聞き、ケアの中に取り入れるようにしている。又日頃から、雑談を交えたりとアットホームな雰囲気作りをおこない、家族様との関係性なども良好に保てるように工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いやニーズをふまえ、他サービス利用も含め適切なサービスが提供できる様に、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、職員が分からないことなどを尋ねたり、教えてもらうような場面を作ったりと心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には現在の状態を詳しく説明している。面会が少ない御家族には電話での状態説明を行い、面会の声かけも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前までの人生史を本人、又は御家族からお聞きし把握しその情報をケアに活用するようにしている。これまでの関係や馴染みの関係なども継続できる様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考えての席のセッティングなど行い、必要時その都度変更できる様にしている。職員が間に入り会話などで盛り上げられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の方から相談があった場合にはその都度対応している。施設で看取りを行った方など、初盆参りなども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話から、本人の意向や意思の把握をおこない実現できるように工夫している。パーソンセンタードケアの実践に努めている。まず第一に入居者本人を知ることが大切になっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に人生史を御家族様に書いてもらっている。また今まで利用してこられたサービス歴も確認し、可能な限り連携をとるようにしている。友人や知人の面会の際には会話などから情報を得たり尋ねたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人のペースで過ごしてもらえようように、状態観察をおこない自由にしてもらっている。行動や表情などの変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれのプランの期間にあわせてのカンファレンスを行っている。状態の変化が見られた時はその都度行い、意見を出し合いプランに反映できる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録には、会話内容など詳しく記入するようにしている。行動内容も具体的に記入し、その内容を考察しプランに反映できる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報やサービスを利用できる様に、視野を広げる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在傾聴ボランティアの方が来てくださっている。美容室のカットボランティアの受け入れも行っており、美容室へ行ったりもしている。なかなか地域資源の発見、活用ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族の希望を尊重し、かかりつけ医の決定をおこなっている。たま適切な医療が受けられるように受診の援助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃からと看護師と医院の看護師が連絡を取り合い情報共有を行っている。緊急時の対応も24時間体制で行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、入院先の医師・看護師に情報提供を行い、情報交換を密に行っている。面会も頻会にいくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを実施していること御家族に説明し、同意をもらっている。また、本人と御家族の意向を確認し、本人の望む最後が迎えられるようにスタッフ全員でとりにくんでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人スタッフには施設内の研修に参加してもらっているが、その後の研修は行えていない。実践で経験者についてもらい指導をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の消防訓練を地域の消防団と合同で年2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた声かけや対応を行っています。方言を使い声かけを多くおこなうので、尊厳が損なわれないように日頃から方言の使い方、声のかけかたなどを職員間で確認をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でのことは入居者自身に尋ね、決定していただくように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や日課などの参加は入居者の方の意思を尊重し無理強いないようにしている。業務優先にならないように日頃から配慮し、それぞれのペースで生活が送れるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を決めてもらったり、化粧品など使い慣れたものを用意するようにしている。声かけも工夫し身だしなみに興味を持ってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、季節感や見た目など楽しめるように工夫している。その時に食べたいものなどをお尋ねし対応できる様にもしている。又玉ねぎの皮むきや、できる下処理などお手伝いを依頼し一緒に行っている。食器あらいなどもお手伝いをお願いすることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックし少ない方には、食べやすいものやお好きなものを別メニューで対応している。必要時には栄養補助食品も活用している。提供時間も特にこだわらず、望む時間に提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と臥床時に口腔ケアを行っている。本人の状態にあわせて、声かけ、セッティング、介助などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握。誘導時間や使用パットのサイズなど検討している。本人様の訴えサインなども見逃さないようにトイレでの排泄を心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より旬の野菜を食材にした献立作りを心がけており、食事や水分補給などで工夫している。必要であれば薬などの量を調整し、快適な排便ができる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の実施のほかに、本人が希望があったときなども対応している。夜間帯での入浴実施はできていない。菖蒲湯やゆず湯、などの季節のものも取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者の好きなように過ごしてもらい、夜間も眠たくなるまでお好きなように過ごしてもらっています。夜間不眠傾向にあられる方は日中の活動を検討し、夜間眠りやすい環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬剤内容をファイルし把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそい、急な希望でも対応できる様にしている。御家族への協力依頼もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者それぞれの管理能力に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状や、暑中見舞いなどを手書きで書けるように支援し、家族や遠方におられるお友達などに出している。電話も希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、温かい光や快適な風などを取り込めるようにしている。又季節の花などを飾り季節感を感じれるようにしている。施設内の雑音常に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置し、ゆっくりゆったり過ごせるようにしている。人間関係にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使っていた馴染みの家具や品物の持込をお願いしている。仏様の持ち込みもあり、本人にとって居心地のよいお部屋作りにかけている。又状態に合わせた家具の配置替えなどもその都度行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の状態にあわせた対応を行っている。職員間でもはなしあい、変化などの情報共有を行っている。		